

協会活動状況

支笏湖オコタンペ湖付近および、支笏湖周辺道道の調査

●九月二十五日(土)二十六日(日) 井手、田川、渡辺、金光、以上四名参加。午前十時、札幌管林局集合、湖畔にて昼食、モーターボートでオコタンペ川の管林警察に到着。すぐオコタンペ湖に行き夕刻帰着。同夜は寮に一泊。翌二十六日、西南岸を車にて行く。有料道路および、それにつづく設計中の道道を視察。夕刻バスにて帰札。

網走固定公園調査

●十月八日(金)九日(土)十日(日) 東条、井手、石川、斎藤、以上四名参加。九日朝より能取岬、能取湖、サロマ湖周辺を視察。同日夜は網走湖荘に一泊。翌十日、天都山、大観山、女満別湖畔、原生花園を調査。

阿寒国立公園調査

●十月二十五日(月)二十六日(火)二十七日(水)二十八日(木) 井手、金光、楡金、および道市川林政課長、以上四名参加。二十五日、井手、楡金両氏、途中上川役場訪問。神居古潭を視察。二十六日、北見から美幌峠を通り和琴半島、砂湯、仁伏をまわり、藻琴山を視察。同夜、川湯で泊。翌二十七日、硫黄山、摩周湖の視察。阿寒湖畔で一泊。三日目、二十八日、阿寒湖畔を出発。

厚岸および野付風蓮道立自然公園調査 ●十一月十九日(金)二十日(土)二十一日(日)二十二日(月) 井手、渡辺、伊藤、島倉、籠山、斎藤、小林林務部長、以上七名参加。

二十日朝、厚岸より出発。臨海実験所あやめが原を視察。浜中より根室にいたり一泊。二十一日、小雪の舞う中、ノサツブ岬、風蓮湖の別当賀付近視察。厚床より別海にいたる。西別海手前から砂州を一本木まで南山し、尾岱沼で昼食。小林林務部長と厚床駅前で別れる。尾岱沼で籠山、伊藤両氏と別れ、井手、渡辺、島倉、斎藤各氏中標津にいたる。そこで一泊。二十二日、テレビ塔のある丘まで行き展望。引き返し厚床駅にいたり十一時四十分の汽車にて帰札。

●十二月四日(土)第十回理事会

午後二時より。出席者―中村、松村(雪印)、岩崎技師、柳崎(北炭観光)、可知(山岳連盟)大島(王子造林)渡辺、田川、宮脇、高橋(土木部)高倉、中村(北電土木部)、松岡、高橋、楡金、今井東条、金光、籠山、井手、島倉、明道、石川、以上二十三名。

一議 事

- 1、最北端の碑の鎮末について
 - 2、会議についての中間報告
 - 3、総会の件についての事情説明
 - 4、委託調査に伴う地方懇談会について
- 委託調査報告の正確を期するため、網走、根室、釧路で土地の各種団体と懇談し、併せて自然保護思想の普及を期することを提案、承認される。

- 5、北海道都市周辺自然保護部会について多少事情の不明な点があり、関係者の考えを聞くことにする。
- 6、辻井氏の南アメリカ遠征にさいして援助すること。
- 7、オコタンペ湖意見書承認(一部訂正)
- 8、恵庭岳スキークロスについて
- 9、金光理事より発言あり、スキー連盟や市関係者と話し合うことになる。

そのさい網走湖、サロマ湖、能取湖の道路と湖水との間の建設物のこと、私有地のこと、売店設備のことなどが決定される。午後四時散会。

そのあと記者会見あり。なお、辻井氏より文化財保護委員会との連絡会議を開くよう要請あり。

●昭和四十一年一月二十二日(土)第十一回理事会

出席者―山田(代)、石川、岡松(代)、柳崎、小田(代)、金光、渡辺、伊藤(秀)東条、大野、小林、羽鳥、高橋、島倉、高倉、籠山、井手、以上七名。

一議 事

- 1、自然保護の基本的問題について
 - 2、サンショウウオの産卵地の保護
 - 3、大沼公園の駒ヶ岳スカイライン
 - 4、都市周辺自然保護委員会について(十万以上の都市を対象としている)札幌以下九市。
- 一月三十一日(月) 井手理事長、「エゾサンショウウオの生息地の保護に関する意見書」を道土木部次長に手渡す。次長はでき得る限りの

協力を約束してくれる。

●二月四日(金)

鳥倉理事が土木部技師と検討した結果
道道々を多少ずらす要があり。その結果
国有林にはいるため、土木部の人とも
に定山溪管林署に行き相談。いろいろな
問題点もあるので、当日午前十一時半か
ら管林局経営部長室で種々相談。

●二月二十八日(月)

「自然公園内における諸問題に関する
意見書」を知事、石狩支庁長、管林局長
に呈出す。

●三月七日(月)網走地方懇談会

午前九時三十分より網走支庁会議室。

出席者―石川、金光、楡金、斎藤、原、
井手、道庁公園係長、網走支庁関係者、
北見、網走林署関係者および通信関係者

1、理事長挨拶

2、支庁長挨拶

3、各理事紹介

4、石川、金光、楡金、原、斎藤各氏の
意見あり。

5、網走国定公園、網走湖、サロマ湖、
能取湖、トウツ湖、海岸景観、流水、
道路、天都山、原生花園についての意見
交換、知床国立公園の斜里尖端について
の検討。阿寒国立公園、美幌峠、釧北峠
について種々意見あり。ヤチダモの原生
林、ミズバショウ、サンゴ草を天然記念
物の指定してはどうか。また自然保護協
会の支部を作りたいとの意見あり。

午後三時散会。

●三月二十三日(水)根室地方懇談会

午前十一時開会。出席者―井手、鳥倉

渡辺、斎藤、楡金、中平事務員、根室、
標津、帯広管林署関係者、根室市関係者

井手理事長挨拶、鳥倉、斎藤、渡辺、
楡金、各理事挨拶、鳥倉理事、白鳥の観
光について具体的な話。ひきつづき自然
保護と観光についての種々検討。知床につ
いて動植物についての特別地区を限つて
ほしい。自然保護に関する教育的配慮を
協会は講じてほしいとの意見あり。

●三月二十四日(木)釧路地方懇談会

午前十時十五分開会。出席者―井手、
斎藤、渡辺、石川、鳥倉、岩崎技師、犬
巻副会長、釧路支庁関係者、管林署関係
者、観光関係者。

犬飼副会長挨拶、厚岸道立公園の問題
点、および温泉源の問題について種々話
し合い。

●四月三十日(土)常任理事会

正午より。出席者―東条、犬飼、石川
渡辺、小林、斎藤、中野、井手、金光、
途中、中野新林務部長、広中新林政課長
の挨拶がある。

一議 事

1、四十二年度、全日本山岳競技選手権
大会について、
協会として意見書を作成する。

2、支笏湖の発電計画について
北電の方から計画書を出してもらい、
現地調査をする。

3、手稲山オリンピックコース
環状線、ロープウェイ、室蘭への送電
線の問題について話し合う。

4、収支決算報告
予算、委託費についても審議

5、恵庭岳のスキーコース

6、愛鳥週間のこと

7、真駒内の森林公園とオリンピックコース
アイスケート場とのこと。

8、総会の件

●五月二十八日(土)北海道自然保護
協会総会

午後一時三十分より拓銀本店五階会議
室。出席者―東条、犬飼、井手、高橋、
稲垣、田川、斎藤、榎田、福原、植田、
宮脇、大野、原田、山田(代)、伊藤(代)、
金光、阿部、柳崎、奥村、市川、松岡、
星、中村、金井、小関、石川、鳥倉、原
以上二十九名。

1、事業報告

A、豊平峡ダムの件での申し入れ(開
発局)

B、オコタンベ湖周辺の道路建設。道
路の作り方、土砂の捨て方について
要望。

C、大雪山黒岳、ユコマンベツのロー
プウェイ建設。ユコマンベツの場合
は、すべて木を切る必要はない。

D、ウトロのオロンコ岩の採石問題。
現状で採石中止。

E、宗谷岬の落書注意のてんまつ

F、サンシヨウウオ産卵地保護

G、道庁よりの委託調査について

H、恵庭岳スキーコースについての発
言あり。新聞報道、協会の立場など
種々、説明意見がある。冬季オリン
ピックの組織委員会がきたら協会の
意見、要望(コース、方法などに
ついて)を共同で話し合つたり、検

討するようにもつていくことにする

I、黒岳のロープウェイについての経
過報告(植田氏)

J、会費の問題

学生会費は今までどおり、理事は二
口以上を了解してもらおう。

2、決算報告、予算書報告

すべて承認され、午後三時二十分散会

●六月十日(金)委託調査報告打合せ
会議

十二時より植物園事務所。出席者―井
手、伊藤(秀)、石川、斎藤、鳥倉、辻井
以上六名。

北海道に委託調査の報告書を作成する
ため、各理事の意見を聞く。種々意見あ
り。これらをまとめて報告書をつくるこ
とになる。

●六月十日(金)第十二回理事会

午後四時三十分より植物園事務所。
出席者―東条、犬飼、鳥倉、榎田、宮
脇、大野、斎藤(春)、中村、石川、山田
(秀)代、柳崎、金光、春日、渡辺、小関
田川、中野、松岡、高倉、高橋(延)、井
手、以上二十一名。他に道庁より二名。

一議 事

1、恵庭岳スキーコースについて
協会の立場、自然保護のうえから、種
々活発な意見が交わされる。結局、当協
会としては、恵庭岳に必ずしも反対はし
ないという態度で、今後事情をよく調査
してゆくようにする。組織委員会ができ
たら積極的に働きかけることにきまる。

2、委託調査について
今年度の予算は九十万円で調査地は、



オコタンベ湖（恵庭岳頂上より） 萩 千夏子

天売焼尻道立自然公園、大雪山国立公園、利尻礼文国定公園、富良野芦別道立自然公園、襟裳道立自然公園、暑寒別道立自然公園の以上六カ所。常任理事を中心に四人編成くらいで調査することが承認される。

3、建設省で出した「新国土建設計画」の中に自然保護をもくわえてもらいたいと、日本自然保護協会に働きかける。

4、「都市周辺自然保護対策における主要都市の現状と課題ならびにその方向」の文書について、道土木部都市計画課長羽鳥氏挨拶、次会に説明を聞くことにする。

5、会誌、会報の件

編集委員は前年と同様の委員に委託。前年度以上の会誌、会報を発行する。

6、レインジャー増員の件で会長より発言あり、道庁、関係方向からの資料を得て厚生省の国立公園局へ陳情する。厚生省へ陳情を会長から行なうことが承認される。

7、北大農学部の中に自然保護学科を申請中なので、協力をしてほしいと島倉理事より説明あり。午後六時散会。

●七月一日（金）第十三回理事会

午後四時より植物園事務所。出席者―東条、犬飼、石川、斎藤、小関、伊藤（秀）大野、山田（秀）代、中村、柳崎、山田（幸）楡金、榎田、春日、島倉、宮脇、地崎、金光、松岡、井手、以上二十名、ほかに札幌市よりオリンピック説明者二名、北電より四名、道庁より三名出席。

―議事―

1、美笛揚水発電所計画について
北海道電力水力計画課長伊達健次氏より説明がある。

降雨、汚濁、道路使用、地質上の問題点などについての質問あり。この計画はまだ図上の段階であり要望をまとめ、営林局とも折衝して提出する。

2、「都市周辺自然保護対策における主要都市の現状を課題並びにその方向」について都市計画課長説明は次会にしてもらう。（時間の関係上）

3、恵庭岳滑降コースについて

札幌市よりオリンピック準備室長・小林氏説明。それについて種々質問あり。今後、当協会としてもよく検討すべきであり、今後オリンピック事務局ともよく連絡を保つたうえで協議することにした。との結論が出る。午後六時散会。

●七月十一日（月）常任理事会

正午より植物園事務所。出席者―犬飼井手、斎藤、石川、田川、宮脇、高橋（延）渡辺、松岡、島倉、以上十名。

1、委託調査の打合せ

六カ所の日程、調査参加者などをきめる。

2、北大自然保護学科設置要請について
島倉教授より説明があるが、北大の学内でもつと地固めしてから案を練り、協会がどのように協力するかをきめる。

3、恵庭岳スキークロスについて井手理事長より報告。午後二時散会。

自然公園園調査報告

① 阿寒国立公園藻琴山および屈斜路湖周辺の今後の自然保護方法

(イ) 藻琴山は阿寒国立公園区域内においても最も眺望がすぐれ、原始的な風景も残しているから、この自然景観を保存することはとくに必要である。

従つて、この区域内に車道を新設する場合は、従来ある林道との関連に注意して、これを生かすよう工夫することが肝要であり、林道とまつたく別につくる場合には、旧林道を道通道路として利用できよう配慮されたい。

また、山頂あるいはその付近に休憩所駐車場などの施設を設置する場合も、自然景観の保持についてとくに注意されたい。

(ロ) 屈斜路湖は広大な中に、素朴な自然景観を有している。この特質を生かすためには、その周辺における道路、建築物、駐車場などの設置にさいしては全体としての計画は慎重に樹立してこれに従うことが大切で、個々の計画を無秩序に行なわないよう注意せねばならぬ。すなわち、屈斜路湖周辺の集団施設地区としては、現在和琴半島付近となつてい



他の個所における単独施設は、上述の趣旨にそつて極力最少限度にとどめ、この湖の自然を保有すべきである。

また、和琴半島の管理については、とくに樹木の保存に注意し、歩道といえどもみだりに拡張、新設することのないよう配慮を要する。また、各施設により生じる汚水の処理にはとくに注意し、水質の変化を生ぜぬよう、あらかじめ措置すべきである。このことはいかなる湖水地帯においても同様である。

さらに各地において、しばしば問題となつてい

② 阿寒国立公園内主要幹線道路の風致的観点からみた設計および施行について留意もしくは改善すべき問題点

阿寒国立公園はその広大なること、および地域的立場より産業、観光および一般的な交通利用上の重要な幹線道路が通じており、今後も新しく開発される可能性も少なくないが、これらの大部分は国有林を区域とする森林を通り、本道の特徴ある自然景観に目のあたりに接するところが多い。

しかしその反面、これらの道路開設により貴重な森林を損傷し、自然景観をいぢるしく低下させるおそれも生じてくる。従つて現在の道路の管理を完全に行ない、道路近縁の樹木の保存と、のり面の保護に注意すべきである。

さらに公園内における道路の新設、あるいは既設道路の改良計画に際しては、単に交通利用の点のみを考へることなく公園全般としての自然景観保持に留意しまたその土地の植物、生物、および地質学上の貴重なものを失なうことのないよう慎重に配慮すべきである。

③ 知床国立公園知床岬の自然保護方法と今後の利用施設の具体策

知床国立公園は全国

るので知られているが、その最先端である、知床岬は、この公園を象徴する重大なポイントとして、とくにとり扱いに注意すべきところである。

この岬は高山性の植物が多く学術上にも貴重な個所であるが、その保護のためにも上陸あるいは外部よりの入地の便宜をはかるべきではなく、でき得る限りその原始状態の保持に努めるべきである。

④ 知床国立公園横断道路計画との関連における羅臼湖の自然保護方法

知床国立公園横断道路として、ウトロ・ラウス線が計画されているが、これにより羅臼湖にいたることも容易になり、この秘められた湖を訪ねる人も増加するものと思われ。

しかしこの湖はその景観よりみてもあくまで原始性を保存せらるべきであり、また学術的にも湿性植物など貴重な種類が多い。従つて湖の近縁に車道を設けぬことはもちろん、自然観察路としての歩道もじゆうぶんなる注意をもつて計画すべきであり、湖畔に建築物などの施設を設けることは避けなければならない。

⑤ 網走国立公園小清水原生花園の自然保護方法

小清水海岸の砂丘植物群落は、原生花園の名の下に近年とくに観光客が増加している

考えられるが、現在設定されている園路およびこれに設けられた柵も保護のためには有効なものと思われる。休憩舎、売店などは景観上ふさわしいものとはいえず、今後なるべく早い機会に、一切の施設を総合した築造物を設定すべきであろう。

なお、植物の採取、損傷をふせぐよう注意すべきはもちろんであるが、道路および駐車場を整備し、土煙りによる植物の荒れをふせぐとともに、これらが病害虫により損することのないよう、つねに留意すべきである。

⑥ 網走国定公園呼人地区および女満別湖畔の風致維持に留意した利用施設規模および配置方法

網走国定公園には佐呂間湖、網走湖をはじめ的大小七つの湖沼があり、それぞれ異つた自然観をもつて道内における自然としても、もつとも特徴ある存在を示している。このうち網走湖はその広さと周囲の自然環境よりみて、よくまとまつた景観をもち、とくに網走市街に近く、道路はよく発達しているので、利用価値もきわめて高い。従つて各地区における利用施設の必要性はじゆうぶん認められるが、それだけに網走湖特有の自然景観を損ぜぬよう場所、および規模についてとくに注意して設置しなければならぬ。網走湖の大きな景観的特徴は女満別、呼人地区を通過し網走市街にはいる鉄道

園道より容易にこの湖の景観をみる事ができるのであるが、これをふせぐような施設は好ましくない。現在、すでに園道と湖畔の間に存在する建築物に対しては、今後、植樹などにより修理を行ないこの地の自然環境にふさわしい状態を保ち得るよう配慮すべきである。

さらにこれら地区の湖畔には散策路を設け、すべての来訪者が自由に湖畔を利用することのできるようとり計らうべきである。呼人、女満別地区の集団施設計画においても、前記の特質を考え利用者の便を計るとともに、あくまでもこの貴重な湖の自然景観を守るよう努力すべきである。

なお、とくに呼人半島においては樹木を損傷することのないよう、じゆうぶん注意のうえ施行すべきと思われる。

⑦ 野付、風蓮道立自然公園、風蓮湖周辺の風致維持に留意した利用施設規模および配置方法

風蓮湖はその周囲六十五キロメートルという広大さよりみて、また海跡湖という性格からかなり特種な景観を呈している。全般にわたつての展望はむづかしく、また局部的な自然景観に重点をおいた利用もとくにとり上げなければならぬ個所も見られない。

この湖のもつとも大きな魅力は、オホーツク海につらなる莫たる湖面と、その背面を占める大湿原と、そこに散在する漁村風景のかもしれない。そこに散在する

ードにあるといえよう。従つて風蓮湖を訪れるには、根室市街から国道四十四号線により厚床市街にいたり、さらに原野を貫く国道二百四十四号線により風蓮川ケネヤウスベツ川、ホンヤウスベツ川を渡り、別海市街を右折して、走古丹をすぎ一本木にいたる間となるが、この間で拠点を考えれば別当賀川口、風蓮川口などとなるが、これらとても休憩箇所としての施設にとどまるものと思われる。

⑧ 野付、風蓮道立自然公園の白鳥と公園の利用者のむすびつけ方法

風蓮湖はオオハクチョウの渡来越冬地として著名であるが、十月下旬より十二月にかけて約一萬羽を越える大群が風蓮湖に集まり、さらにこの湖の結氷とともに尾岱沼海岸に移つて、四月まで滞在する。しかしこの期間は、この自然公園の利用期からはずれているので、今まではこの大群にふれることのできた人は少なかった。

しかし、野鳥に対する一般の興味と認識が深くなり、また冬季観光が軌道にのつてくれば、当然冬の間もこの地方を訪れる人々は増加するものと思われる。従つて、オオハクチョウの観察拠点を確保することが必要となつてくる。晩秋

より初冬にかけては別当賀川口に近づくことが多いので、この付近を観察地とすべきであろう。もちろんこのための施設は前の限度にとどめ、鳥を驚かさず、風致を害さぬよう樹木の保護にもとくに注意すべきである。

なお、ここに集まるオオハクチョウはその日の天候により接岸状態が異なるので、つねにある程度近づけておくためには給餌の方法も考慮する必要がある。風蓮湖が結氷すれば尾岱沼に集まるが、ここでは春別川口に寄ることが多い。

従つて、この地点も重大な観察箇所となるが、すでにこの地区で行なわれている給餌をつづければ、一層近接するようになる。しかし、観察者は園道より絶対に浜に下りぬようにしなければならぬ。なお、施設については別当賀川口と同様である。

⑨ 厚岸道立自然公園アイカツブ岬から、あやめが原にいたる間の風致維持に留意した利用施設の規模および配置方法

(イ) 厚岸道立自然公園アイカツブ岬は厚岸湾大黒島、小島、および太平洋のコタン海岸に点在する漁家を眺望できる要地であるが、海外景観ばかりでなく、この地には激しい潮風に耐えてきたカバ類を主とする林がみられるのは、まことに北国の岬らしい特徴を有している。駐車場から岬まではかなり離れている

が、往々他の地方に見られるように園地に直接車をのり入れることなく、園路により連絡を保っているのは適切な処置と思われる。

この土地は北大理学部附属臨海実験所が使用しているが、水族館もあり、さらに園内には自然観察にむく園路や付近に道有林の樹木園もあるので、単なる遊覧の場としてでなく、これらの施設を大いに役立たせるよう配慮すべきである。

この岬は厚岸市街に近いので利用者も多いが、園地内における樹木、草地の損傷はもちろん、肩類の放置についてはとくに注意すべきで、注意札、肩かごなどもじゅうぶん配備すべきである。

(四) アイカツ岬よりあやめが原に通じる道路は車道とはいいがたいが、この土地の利用を考えれば今後さらに整備されるべきであろう。あやめが原は太平洋のぞむ崖上の広い岡であるが、一面に生えているあやめは今後、利用者の増加に比例して減少するおそれがじゅうぶん考えられる。

この防止のためには入園者に対し、この地の重要性をよく認識させるよう注意札などにより計らうことはもちろんであるが、まず、あやめの生えている原に車を乗り入れることをやめさせるべきで、駐車場を入口付近に設け、公衆便所などの施設も、ここにつくるように配慮したい。

駐車場より崖まで園路をつくり、でき得るかぎりあやめを傷つけぬよう指導することが必要である。また、崖上の危険

防止柵も強化して事故の防止をはかるべきである。

展望台を設けるとすれば、利用度を考え、休憩所をかねた簡単なものでよいと思われる。



① 阿寒国立公園

この国立公園は、日本でもすばらしい景観と規模を有する公園の一つである。その玄関先ともいふべき美幌岬においては、美幌岬の大観を羨しむべき休憩所の窓ガラスがない。はめてもはめても全部持ち去られるということである。

これをふせぐには番人を置く以外に方法はないのであろうが、この休憩所ばかりでなく、公園内の多くの施設は窓ガラス、カガミ、柵、電燈などが破壊、棄損されることが多く、落書きも依然としてやまないようである。その完全な防止は利用者の公衆徳徳の向上に待つほかはないが、現段階としては、その施設設置に際して極力これを防止し得る設計を考慮することが大切であると考えられる。

また、展望台附近には売店があるが、無許可立入の立売人による弊害の話もある。これは法律に基く強固なとり締りを実施する以外に方法はないだろうが、自

園内の清潔を保つため肩かごをできるだけ多く整備したいのは、アイカツ岬と同様であるが、キャンプ場も両者ともに設けぬほうがよいと考えられる。

昭和四十年

調査参考事項

然公園法による強い規則を望む。なお、美幌岬の公衆便所の水洗式には感じさせられた。

和琴半島の入口には私有地がある。將來、しだいに温泉ホテルなどの数がふえることが考えられる。自然公園内では私有地といえども利用計画に基く強い規制が行なわれるべきはずであるが、利用権の問題もあり、その実施にはかなりの困難があるものと想像される。しかし、自然公園としての貴重な景観を保持する上においては、常時執行体勢を強固にし、既成事実をもつてする違反のおきぬようこの地区においてもとくに注意してほしい。このことは和琴半島にとどまらず、阿寒湖畔、仁伏、砂湯附近などにもいえることである。

川湯は温泉の使用量もふえて、昔の川湯の面影がない。温泉の使用量も制限すべきではないのかと考えられる。

硫黄山のハイマツ、イソツツジの群落が大規模に枯れてきている。これは上方

から流出してくる硫黄のまざつた砂で押しかぶされて木が弱り、二次的に病、虫害を誘発して枯死していくのであろう。ここは観光資源的にも学術的にも、きわめて貴重なところであるから、少なくとも空中から写真をとり、現況を把握しておくとともに、さらに自然の植生のうつり変わりを調べる固定した調査区の設定が望ましい。それとともに、硫黄山の土砂くずれには早急な対策が望まれるものである。

現在シラカバが増大して、ハイマツやイソツツジを被圧してゆく方向に進行しているが、やはり景観保持という立場からはシラカバの侵入をある程度コントロールしたほうがよいと思われる。

摩周湖から横断道路にはいと、地肌まるだしの急斜面が目につく。これは危険であるから緑化が必要と思われる。道路沿いの森林はクロエゾマツ、トドマツの老人径木にサルオガセが付着し、林床にササが密生して特有の風情をかもしているが、中層、下層を占める後継樹木群がほとんどなく、更新上からは全く不安定な相である。ここに目立たぬよう図ることが望ましい。

また、摩周湖より川湯にむかつてくだる観光道路は、それ自体ながめとしてとくに美を感じない。このようなところは適当な方法で施業し、天然林をコントロールして、成長量の増大を図りながら美しい優良大径木の生育を図るよう施業することが適切ではないかと考えられる。弟子屈より摩周湖に登る道路の両側に

苦勞して造成したトドマツ、エゾマツの造林地がある。標高の高いところは厳しい寒風害のため造林は容易でなく、造林することによりかえつて不自然さを感じさせるのではないか。こうした場所は、むしろササ一面の広々とした荒涼的な北海道的な眺めが効果的でさえあると考えられる。

阿寒湖畔のジュニクボツタスの高い音は、外部にもれないよう配慮されたい。この騒音に類するレコードの音は、近年とくに各地の景勝地に見られるが、自然に親しむ環境を害することはなほだしの場合が多いのは注意すべきである。

② 知床国立公園

知床岬は高山性の植物が多く、学術上にも貴重な個所であるが、その保護のためにも現在は上陸あるいは外部よりの入地を禁止することが必要である。しかし将来管理がゆきとどき、就中、植物に対する監視がじゅうぶん行なわれるような方法がとられる場合は、一時的上陸は可能と思われる。従つてこの場合は、貴重な自然景観を害さぬ方法により、上陸用棧橋などの施設はやむをえないことであるが、この土地に宿泊施設などを設けることは賛成できない。

知床半島の森林ではオジロワシが営巣繁殖し、海岸のがけではチシマウガラスの産卵が確認され、将来はエトピリカ、その他の営巣も発見される可能性があり。また、知床岬灯台下の草原ではシベリアセンノウウが営巣繁殖しており、多

くの鳥類の繁殖、渡来地として貴重な土地である。約言すると、知床には今後の学術的調査で明らかにされねばならぬもの、および樺太、千島を失つた日本にはかけがえのない貴重な北方の自然が幸いに今残されているのであるから、これらが心ない人々に荒されることを防止するため万全の策がたてられ、かつ厳格に実行されねばならない。

羅臼町へはライフルを持つた密猟者が自動車で乗り込み、オジロワシを数回にわたり射落としているといわれ、また、現地町当局の申し合わせを無視して、旅行者を漁船に便乗させ、赤岩に下船させているという話を聞いたが、これらに対しては早急な規制と強い指導のなされることを望まれる。

③ 道立厚岸自然公園と野付風道自然公園

厚岸の市街から南東へ進んで道有林内をあやめが原に向かう林内にはシラカバ、ダケカンバのほか樹齢約三十年というトドマツの人工林があり景観的にも美しく貴重である。山火防止に遊覧客の特別の関心と協力をよびかけたものである。あやめが原にある展望台のようなものは、木造で小さく、子供や老人が上るには向かないので考慮されたい。また、あやめが原へのバスの便をよくし、それによつてキャンプ場のない不便を解消したらいのではなからうか。

野付、風道道立自然公園へ白鳥を見にくる冬の観光客のために、バスの便(厚床

根室から別当賀へ、また標津から浜春別へ)をよくし、展望台を設けるとすれば風致をそこねないような位置と形を選び屋根、壁、窓を設けて、内部の人の動きが白鳥を刺激しないようにする必要があり。秋の白鳥をみる遊覧船などを湖上に浮かせる場合には、別当賀と一本木間、尾岱沼の場合には浜春別と尾岱沼市街内を風のおだやかな日に限り時間をきめて運航するのがよいと思われるが、この場合は船の運行に注意し、白鳥をおびやかさぬ航路と視察方法をとるべきである。

④ 網走国定公園

網走国定公園は、いずこも広々とし、はるかにオホーツク海を視界に入れる洋低平な地貌は見る者に静かなやすらぎを与えてくれる。

網走湖は、これを一周する道路は各地点によりそれぞれの異なる自然景観を鑑賞できて、この湖の特性をじゅうぶん満足してくれる。しかし、現在以上に湖上近く走る車道の必要はなく、つくるとすれば歩道を整備することとなる。とくに呼人半島の湖辺をまわる歩道をよくし、湖岸逍遙の快味と静寂感を味あわせるように心がけるべきである。また、網走湖辺は鉄道の車窓からもよく見える部分であり、網走湖警見の印象をよくするためにも、工作物と自然との調和をよく考えるべきであらう。

能取岬の台地上には、現在ある以上人工を加えず、むしろ二六二メートルの背後の山に道を通じて展望するのがいいか

と思われる。また、能取湖の湖辺にはサングラといわれているアツケシ草が群生しているが、その植生上の湿地に車のわたちの跡が多いのはまことに遺憾なことで、漁具を運ぶ道があるのに湿地帯に車をのり入れ、貴重な植物群落を滅亡せしむることのないよう厳重に注意すべきである。

サロマ湖は南岸からの眺望は茫洋として海にたつたる壮大な景観である。庄巻は中央部富武土川に西側の丘上より円山までの間の湖岸崖上よりの展望である。しかし、ピラオロ荘下の岩崖が崩壊して警戒すべき状態である。富武土東方の幌岩山もその山麓側はこの古い岩石の崩れた崖壁でできているので、建築物をつくる場所は地質的にあらかじめじゅうぶん検討すべきである。

サロマ湖周辺は古くより開発され、鉄道、車道も縦横し、原始的景観はすでに損われてはいるが、湖辺はまだひなびた素朴さを残している。従つて、少くとも国道および鉄道路線より湖側は工作物の設置に注意し、この得難き自然景観を護るとともに、観光施設はその中心となる諸点を選んで、周囲に調和した施設をつくり、湖全体としての景観を損わぬように心がけるべきである。

大観山からの網走、能取両湖の眺望は趣きがある。これからの新しい展望地として、やむをえない小施設は背後の樹林中におき、丘上はいまのままのほうがいい。

小清水原生花園は鉄道と湖岸の間の自

動車道は整備され、観光客のための施設も必要であるが、色彩も形もこの自然景観に調和するよう設計してほしいものである。

女満別から呼人にかけて網走湖畔に多いヤチダモ、ヤチハンノキ林は、現在北海道において、低地の落葉広葉樹からなる天然林として、原生林の面影を残す代表的な平原林の一種であり、貴重な存在であると同時に、その林床のミズバショウおよびオオバナエンソウの美観をもつて知られている。この森林は、鉄道防雪林用地を除き、北見管轄下の管轄下であり、間伐許可は十五パーセント以下とされており、風致保安林になつてゐる。

国鉄としてはこの林に関して、鉄道線路より湖畔側は二〇メートルが防雪林用地となつており、現在の林相をもつてほぼ防雪の役目を果しているが、将来はより効率の高い針葉樹の防雪林に更新したい希望をもつており、文化財保護指定としては、最少限度の面積におさえてもりたい要望であると思われる。

また、女満別町は現在町の西南に位置する既設の野営地が狭隘となつたので、将来はこの湖畔に遊歩道を建設し、一、二カ所の砂地にキャンプ地を設定し、青少年の訓練と一般町民の観光、レクリエーションの場としたい希望である。その計画の一部として昨年度女満別から呼人に向う間の一部まで道路を施設したが、雪どけ水による湖水面の上昇、風浪によりそのほとんどが決壊したものとごくとある。

ひるがえつて、植物学的に文化財保護の立場からみると、この地点にミズバシヨウの群落、ヤチハンノキ、ヤチダモの純林の生成をみたのは、雪どけ水による湖水面の上昇(約一メートル)により、湖岸に溢れた水が低地に侵入して停滞水となつて湿地帯を形成し、過湿と土壌内酸欠乏をひきおこし、ここに非耐湿性植物の進出をはばみ、現在みるような湿生植物群落の生成を結果したものである。

ミズバシヨウの発芽については、ことに多量の水湿を必要とすることからみて湖岸道路などの建設にあつては、現在の環境条件を大きく変更せしめないよう注意が必要であらう。

⑤ その他

なお、自然公園を通して自然保護の精神を徹底せしむるには景観の美のみでなく、小中学生の頃から自然科学的価値を知らしめることも必要であり、このためには分かりやすい解説(パンフレット、揭示説明板、パスガイド説明など)によつて理解されることに努めることが望ましい。ことに国立公園および主要自然公園の中心地には必ずレインジャヤーを配置し、来訪者、ことに修学旅行団などに対し、自然探勝の実際について教えるようとり計らうべきである。

また、自然科学探究としレクリエーションの目的のため車の入らぬ自然探勝路をつくり、レインジャヤーによるコースによる科学的説明やパンフレットをつくる

ことなど試みることも必要である。たとえば阿寒国立公園内など、アトサヌプリを中心とした熔岩円頂丘群に囲まれた内部など、探勝路を開くべきところがまだあるように思われる。

川湯温泉などは地表下数メートル乃至十メートルくらいのところを流れている温泉を湧出せしめているもので、その下部は地下水層で、深く掘れば水が出るなど、他の一般の温泉と異なる珍しい機構の温泉であり、そのような科学的解説も観光と自然探勝のうえで必要であらう。

さらに日本は温泉国といわれながら、温泉旅館のみ櫛比して、温泉がどこに湧出しているのか分からない温泉地が多くなつてきている。温泉の自然湧出現象の見られる屈斜路岸、和琴砂湯、赤湯、仁伏などの地域は観光面、教育面にも価値があり、自然湧出機構や温泉に影響をおよぼさぬ程度の観光開発にとどめるべきである。

阿寒国立公園内に終戦前利用されたピリカネツツ登山道は、現在ほとんど破損しているものと思われるが、この登山道の途中には噴気や温泉湧出のいちじるしい地獄谷があり、地学的には興味があるところであり、探勝路としても好適であり、登山路補修が望ましい。



会報「第三号をおとどけする。第二号は？と思ひのむきもあるかと思うがそれは大変変則的な形ではあつたが「会誌」第一集の中におさめられている。

いつも書くことであるが、会員の方々の連絡としては会報・会誌が一番手近かな方法なので、会報を少なくとも三回くらい、会誌を年二回という計画をたてているが、とかく発行がおくれがちになつてゐることは申しわけないことである。なお、どうか会員諸賢の声をどしどしよせていただきたいとねがつてゐる。

協会も三十九年十二月発足し、すでに一年半を越える。その短い間に多くの問題が提出され、そのためにほとんど毎月理事会が開かれた。また、昨年来、道庁の委託調査が行なわれた。そのさい、昨年網走、根室、釧路などで地元の方々との懇談会が開かれた。その抄録をこの号に載せる予定であつたが、紙面の都合で、次回にまわさせていただきます。(井手)

昭和四十一年九月二十日発行

札幌市北二条西八丁目

北海道大学植物園内

発行所 北海道自然保護協会

電話(二二〇〇六六番)

発行人 井手 貴 夫

印刷 札幌印刷株式会社